

## 施工計画書の記載内容と作成上のポイント

- 共通仕様書 1-1-4において、受注者は、工事着手前に工事目的物を完成するために必要な手順や工法等についての施工計画書を監督職員に提出することが義務付けられている。
- 監督職員が提示した事項については、受注者はさらに詳細な施工計画書を作成・提出しなければならない。
- 維持工事等簡易な工事においては、監督職員の承諾を得て記載内容の一部を省略することができる。
- 受注者は、施工計画書の内容に変更が生じた場合は、速やかに変更事項について「変更施工計画書」を提出しなければならない。

項目	内 容	作成上のポイント	備 考
① 工事概要	工事名、路線（河川）名、工事場所、工期、請負金額、工事内容	記載内容は、契約書、設計図書に記載事項に基づいて作成されているか。	○工事内容は工事数量総括表の工種、種別、数量等を記入する。
② 計画工程表	工事内容が把握できるように工種別に分類し、バーチャートで記入する。	現場（自然）条件、施工順序、工種ごとの施工期間、労務・資材確保予定等を考慮したものとなっているか。	○様式第8号 ○任意様式の添付可
③ 現場組織表	現場における組織編成及び命令系統、業務分担等	工事内容、現場条件等を考慮し、各責任者間の連携の確保が図られているか。また、各人の責任と権限が明確化されているか。	○下請がある場合は施工体系図を添付する。 ○現場常駐者が分かるよう表示する。 ○現場にも掲示する。
④ 指定機械	設計図書で指定する機械（騒音振動、排出ガス規制、標準操作等）について、名称、規格、台数、使用工種等について記載	設計図書に明示した内容に基づいたものとなっているか。	
⑤ 主要船舶・機械	工事に使用する機械等で、設計図書で指定した機械以外の主要な機械等の名称、規格、台数、使用工種等について記載	設計図書に明示した工種に沿ったものとなっているか。	
⑥ 主要資材	当該工事で使用する資材の品名、規格、数量、製造会社名、納入会社名等及び品質確認の手法と確認時期	記載された資材に漏れはないか。規格は設計図書に明示したものと同等以上か。品質・規格の確認方法は適切か。	○県内産資材の確認 ○製造（納入）会社名は決定時点での追加提出も可
⑦ 施工方法（主要機械、仮設備計画、工事用地等を含む）	主要な工種の施工方法及び順序、施工上の留意事項、使用する機械、仮設・設備計画、特記仕様書に明示した工法・対応、工事用地等	現場及び周辺の条件及び自然条件が十分考慮されたものとなっているか。関係機関との調整事項に対応したものとなっているか。使用機械は適切か。（指定機械）制約条件がある場合にそれに対応したのものとなっているか。共通仕様書で承諾を要することとされる事項についても記載されているか。	○特記仕様書に工法、対応等を明示した場合、又は監督員が補足を求めた場合、その内容が記載されているか。
⑧ 施工管理計画	出来形管理、品質管理、写真管理、工程管理についての管理方法、試験方法及び頻度、工程管理及び品質証明に関する事項	管理項目・規格値等は「土木工事施工管理基準」に基づいているか。必要な工種が記載され規模に応じた管理回数となっているか。監督員への報告方法、遅延した場合の対策はどうか。	○特記仕様書で見本、監督員の立会等を明示した事項がある場合は記載する。
⑨ 段階確認	段階確認を要する工種、時期、項目、頻度	「土木工事監督技術基準」に基づいているか。必要な工種が記載され規模に応じた回数となっているか。	○土木工事監督技術基準別表1に記載されている工種が対象となる。
⑩ 安全管理	安全管理組織、工事現場内の諸設備の点検整備、火薬類の取り扱いと発破作業の事故防止、第三者の事故防止に関する事項	組織は責任分担が明確化され、万一事故等が発生した場合、直ちに対応できる体制となっているか。	○共通仕様書別冊2の国土交通省からの通達等を参考に ○参考様式第45号（安全巡視日報） ○参考様式第46号（巡回点検表）
⑪ 安全・訓練の活動計画	安全教育・災害対策訓練等の活動計画に関する事項	安全訓練の計画内容は、当該工事内容及び工事段階を考慮した適切な計画となっているか。	○参加予定者、開催頻度を記載する。
⑫ 緊急時の体制及び対応	事故、災害時等緊急時の連絡体制・組織、資材等の確保体制	連絡系統・方法は適切か。連絡先に漏れはないか。地域条件を考慮したものか。	○夜間・休日にも対応したものとする。
⑬ 交通管理	交通安全対策、交通規制、保安施設点検整備、現道・仮設道路の管理、交通整理員の配置計画、過積載防止対策	関係機関等との手続きと許可条件。工事内容に十分対応した計画か。特に現道工事の場合、保安施設・整理員の配置は適切か。	○資材（長大物）及び主要機械の搬入計画も記載する。
⑭ 環境対策	騒音・振動・塵埃・水質汚濁対策等、工事車両の影響対策	工事内容に対し、左記対策は適切か。現場から発生する廃棄物・ゴミ等の処理方法は適切か。	○周辺住民への対応策も記載する。
⑮ 現場作業環境の整備	現場及び事務所等の環境整備計画	環境整備計画の内容は、特記仕様書又は工事内容・周辺の条件に即した内容となっているか。	
⑯ 再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法	再生資源利用計画書・再生資源利用促進計画書〔建設副産物の処理、再生資源の活用〕	建設副産物の適正な処理及び再生資源の活用が図られているか。〔詳細なチェックポイントは補足説明参照〕	○共通仕様書別冊2「建設副産物適正処理推進要綱」参照
⑰ イメージアップの実施内容	工事看板・表示板・仮囲い等の美化、周辺住民への周知等に関する事項	イメージアップの内容は、特記仕様書又は工事内容・周辺の条件に即した内容となっているか。	○共通仕様書別冊2「土木工事安全施工技術指針」第2章第10節工事現場のイメージアップ
⑱ その他	・発注者から提供された用地の概要と施工期間中の管理方法について記載する。また、請負者が確保すべき用地及び工事の施工上、請負者が必要とする用地の確保計画、現状の変更と復旧について記載する。		
	・残土を農地又は造成時に処理する場合。		
	・特記仕様書に明示した事項についての対応や官公署への手続き、社内検査体制等。		
	・自然保護、貴重動植物等に関する事項。		
	・薬液注入工事は、詳細な施工計画書を提出する。		○共通仕様書別冊2「薬液注入工法暫定指針」参照